

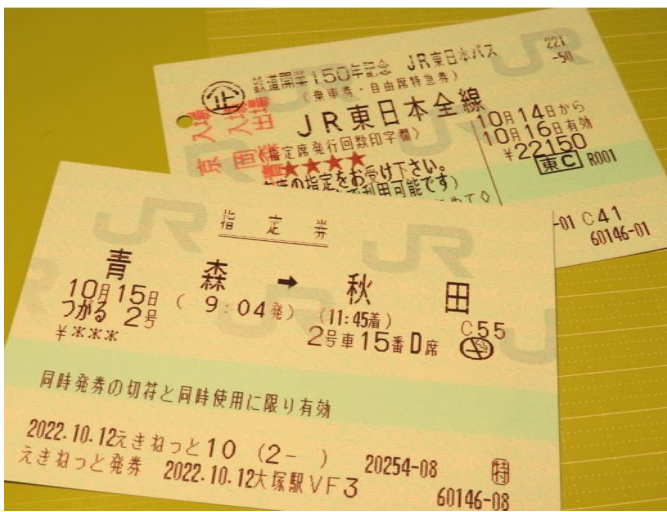
「秋の東北鉄道旅行 (11)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

奥羽本線の青森～秋田間には新幹線が通っていないので、在来線特急が健在だ。弘前から乗るのも「特急つがる」である。この列車はわずか4両編成の「ミニ特急」だが、自由席、指定席、グリーン車も連結している。私の持参したフリー切符では、特急自由席なら何度でも乗れるのだが、指定席も4回まで乗れるので、あらかじめ指定券をとっておいた。



あとでよく特急券を見たら、なぜか乗車駅が「青森」になっていた。確かに弘前発のを買ったのだが、入力を間違えたようだ。しかし弘前は途中駅なので、指定券は問題なく有効だった。



東北地方の JR 在来線で、現在定期運行している特急は奥羽本線の「つがる」と、羽越本線「いなほ」しかない。弘前に停車する特急は「つがる」だけだ。弘前の人にとっても、旅行者にとっても、大変貴重な存在と言えるだろう。



秋田行きの「つがる 2号」は定刻に弘前駅に入ってきた。初めて見る特急車両だ。フィンランドのヘルシンキ郊外の列車にちょっと似ている。



日本では駅の改札を重視するが、海外ではその習慣はあまりない。このフィンランドの列車も、切符なしでも簡単に乗れる。しかし「抜き打ち」の車内検札をやっていて、もし無札が見つかったら、1万円近い「罰金」を徴収される。私はもちろん切符を買って乗った。



弘前駅に到着した「つがる 2号」からは、意外にもたくさんの人が降り、同じぐらいの人が乗った。弘前で下車した人のほとんどは、青森からの乗客だろう。明治時代から青森～弘前間は、鉄道輸送が重視されていた。鉄道は雪に強いからだ。両方の街に陸軍師団があったことから、軍人の移動にも使われていたという。